

2021年度 公立学校教員 採用選考試験は倍率 3.8 倍！ 小学校の倍率、高校の受験者数は過去最低！

旺文社 教育情報センター 2022年4月19日

2021年度の公立学校教員採用選考試験（2020年度実施※1）は全体※2で「受験者総数＝134,267人（対前年－3,775人）」、「採用者総数＝35,067人（同＋192人）」で、「倍率＝3.8倍（前年4.0倍）」となった。

2000年度あたりは、教員採用試験は採用者数も少なく倍率も10倍を超え、まさに難関といえる試験だった。しかしその後は職業としての人気に陰りが見え始め、採用者数はほぼ毎年増加し続けているのに対して、現在、受験者数は8年連続で減少、倍率は11年連続でダウン。2021年度は小学校の倍率が2.6倍で過去最低、高校の受験者数が26,163人で過去最少となった。

※1.2021年4月1日から6月1日までに採用された者。

※2.小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、養護教諭、栄養教諭の合計。

（本記事のデータはすべて文部科学省「令和3年度公立学校教員採用選考試験の実施状況について」（2022年1月31日）による）

●2021年度 選考試験 採用状況

【受験者総数】134,267人（対前年2.7%減）

【採用者総数】35,067人（同0.6%増）

【競争率】3.8倍（同0.1ポイントダウン）

【採用者構成比率（学歴別）】

国立大教員養成系 25.9%／一般大学 63.9%／短大等 2.7%／大学院 7.6%

【採用者構成比率（新卒・既卒別）】新卒者 39.8%／既卒者 60.2%

【採用率（学歴別）】

国立大教員養成系 43.4%／一般大学 23.0%／短大等 17.7%／大学院 24.9%

【採用率（新卒・既卒別）】新卒者 32.0%／既卒者 23.3%

●2021年度 選考試験 区分別実施結果

区分	受験者数		採用者数		競争率 (倍)
		女性(内数)		女性(内数)	
小学校	43,448	17,805	16,440	8,366	2.6
中学校	44,105	12,152	10,049	3,565	4.4
高等学校	26,163	6,340	3,956	1,329	6.6
特別支援学校	9,696	3,933	3,102	1,731	3.1
養護教諭	9,239	7,068	1,319	1,163	7.0
栄養教諭	1,616	1,302	201	181	8.0
計	134,267	48,600	35,067	16,335	3.8

※採用者数は、2021年6月1日までに採用された数。

※小学校と中学校の試験区分を一部分けていない区市の受験者数は、中学校に含む。

※中学校と高等学校の試験区分を分けていない区市の受験者数は、中学校に含む。

※特別支援学校の受験者数は、「特別支援学校」の区分で採用選考を実施している区市のみ集計。

※女性の人数は男女別内訳を把握している区市のみ集計。

※競争率は、受験者数/採用者数。

●過去3年間の採用状況

区分		2019年度	2020年度	2021年度
小学校	採用者数	17,029	16,605	16,440
	競争率(倍)	2.8	2.7	2.6
中学校	採用者数	8,650	9,057	10,049
	競争率(倍)	5.7	5.1	4.4
高等学校	採用者数	4,345	4,409	3,956
	競争率(倍)	6.9	6.1	6.6
特別支援学校	採用者数	3,226	3,217	3,102
	競争率(倍)	3.2	3.1	3.1
養護教諭	採用者数	1,468	1,380	1,319
	競争率(倍)	6.3	6.6	7.0
栄養教諭	採用者数	234	207	201
	競争率(倍)	8.0	8.1	8.0
総計	採用者数	34,952	34,875	35,067
	競争率(倍)	4.2	4.0	3.8

●2021年度 選考試験 各区市別結果

区分	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		養護教諭		栄養教諭		計		競争率 (倍)
	受験者数	採用者数	受験者数	採用者数	受験者数	採用者数	受験者数	採用者数	受験者数	採用者数	受験者数	採用者数	受験者数	採用者数	
北海道	1,074	347	1,519	218	980	133	406	114	436	66	88	14	4,503	892	3.7
青森県	237	114	376	66	422	41	129	38	83	14	25	2	1,272	275	4.6
岩手県	327	141	271	73	315	39	80	25	85	38	10	2	1,088	318	3.4
宮城県	454	256	642	144	404	96	—	29	127	7	18	6	1,645	538	3.1
秋田県	248	136	297	85	231	19	88	20	60	21	17	1	941	282	3.3
山形県	304	189	229	81	193	40	50	29	71	23	15	1	862	363	2.4
福島県	487	277	591	129	458	38	230	47	179	28	—	—	1,945	519	3.7
茨城県	767	397	753	293	643	159	245	88	208	40	38	6	2,654	983	2.7
栃木県	723	256	588	170	480	63	152	38	143	21	—	—	2,086	548	3.8
群馬県	446	125	774	202	475	49	193	52	122	21	—	—	2,010	449	4.5
埼玉県	1,872	716	1,944	451	1,431	204	478	160	314	30	68	9	6,107	1,570	3.9
千葉県	1,570	676	2,682	408	134	248	479	180	336	41	15	1	5,216	1,554	3.1
東京都	3,154	1,499	4,730	1,270	131	23	613	193	637	87	—	—	9,265	3,072	3.0
神奈川県	1,120	359	1,087	234	2,063	379	408	127	249	24	—	—	4,927	1,123	4.4

区分	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		養護教諭		栄養教諭		計		競争率 (倍)		
	受験者数	採用者数	受験者数	採用者数	受験者数	採用者数	受験者数	採用者数	受験者数	採用者数	受験者数	採用者数	受験者数	採用者数			
新潟県	383	146	386	168	80	7	54	28	103	34	10	1	1,016	384	2.6		
富山県	263	170	394	91	—	36	58	46	60	9	2	2	777	354	2.2		
石川県	343	135	596	83	—	45	75	34	84	15	9	1	1,107	313	3.5		
福井県	344	101	310	58	34	22	85	19	62	16	13	4	848	220	3.9		
山梨県	296	165	278	55	219	25	72	31	50	16			915	292	3.1		
長野県	667	220	610	140	492	92	154	55	143	25	32	2	2,098	534	3.9		
岐阜県	607	297	500	159	637	122	198	80	159	33	37	9	2,138	700	3.1		
静岡県	721	248	627	135	809	86	341	113	153	24			2,651	606	4.4		
愛知県	2,230	740	1,654	420	1,530	230	311	80	412	50	111	10	6,248	1,530	4.1		
三重県	998	216	836	118	496	36	102	20	193	17	36	5	2,661	412	6.5		
滋賀県	634	235	580	120	402	65	170	33	98	14	16	1	1,900	468	4.1		
京都府	486	135	527	116	604	102	173	52	81	16	30	5	1,901	426	4.5		
大阪府	1,706	473	1,830	365	1,686	189	658	155	400	24	92	11	6,372	1,217	5.2		
兵庫県	1,817	390	1,328	258	1,380	167	304	100	320	34	92	11	5,241	960	5.5		
奈良県	601	117	436	101	333	55	141	31	107	10	28	6	1,646	320	5.1		
和歌山県	490	174	465	104	261	30	100	36	99	16			1,415	360	3.9		
鳥取県	381	95	248	53	259	35	76	23	58	12			1,022	218	4.7		
島根県	300	121	286	64	303	39	60	22	71	18	22	2	1,042	266	3.9		
岡山県	697	162	570	93	597	59	157	26	167	16	22	1	2,210	357	6.2		
広島県	786	289	784	175	754	96	204	56	183	19	75	9	2,786	644	2.9		
山口県	337	193	307	92	344	67	72	22	99	27			1,159	401	2.9		
徳島県	352	97	229	49	315	34	54	18	106	7	16	1	1,072	206	5.2		
香川県	411	132	367	75	293	40	69	17	77	3	12	1	1,229	268	4.6		
愛媛県	425	199	355	91	380	54	57	25	123	21	37	3	1,377	393	3.5		
高知県	918	134	589	62	412	43	106	30	229	18	59	5	2,313	292	7.9		
福岡県	927	630	1,007	337	1,342	178	231	90	266	43	59	3	3,832	1,281	3.0		
佐賀県	280	197	226	84	284	34	93	37	88	19	9		980	371	2.6		
長崎県	312	212	335	87	280	60	94	50	105	17			1,126	426	2.6		
熊本県	312	178	291	68	406	37	224	78	97	17	26	3	1,356	381	3.6		
大分県	327	208	436	109	520	76	145	48	118	27	33	6	1,579	474	3.3		
宮崎県	391	202	366	67	380	35	137	31	114	10	29	3	1,417	348	4.1		
鹿児島県	581	273	421	95	363	36	136	36	76	25	62	7	1,639	472	3.5		
沖縄県	1,008	218	1,011	74	956	52	222	28	178	13			3,375	385	8.8		
札幌市	※	152	※	112	※	13	※	42	※	16			※	335	(3.7)		
仙台市	445	131	451	118	25	10	—	4	82	7	15	2	1,018	272	3.7		
さいたま市	395	157	439	122	—	3	83	5	47	6	39	6	1,003	299	3.4		
千葉市	※	72	※	58	※	4	※	10	※	5			※	149	(3.1)		
横浜市	1,403	507	1,073	219	5	2	183	63	183	24			2,847	815	3.5		
川崎市	469	148	418	51	7	3	73	20	87	10			1,054	232	4.5		
相模原市	215	73	213	54					35	5			463	132	3.5		
新潟市	196	82	206	34	—	5	12	5	62	8	13	1	489	135	3.6		
静岡市	207	80	165	48					30	4			402	132	3.0		
浜松市	263	89	247	58					57	4			567	151	3.8		
名古屋市	800	211	758	134	—	24	81	20	137	17	39	10	1,815	416	4.4		
京都市	635	160	612	93	204	18	177	64	101	11	35	5	1,764	351	5.0		
大阪市	1,194	434	1,003	327	330	29			233	25	50	5	2,810	820	3.4		
堺市	370	58	322	35	15	2	—	6	62	7	16	1	785	109	7.2		
神戸市	771	105	700	88	25	3	154	28	92	5	27	2	1,769	231	7.7		
岡山市	330	86	273	50					55	5	15	1	673	142	4.7		
広島市	※	175	※	108	※	14	※	22	※	8	※	4	※	331	(2.9)		
北九州市	374	191	506	84					126	61	75	4	47	3	1,128	343	3.3
福岡市	591	308	486	166	41	9	123	62	89	12	28	2	1,358	559	2.4		
熊本市	307	119	271	54					53	8	17	3	648	186	3.5		
豊能地区	369	112	294	46					30	2	12	2	705	162	4.4		
合計	43,448	16,440	44,105	10,049	26,163	3,956	9,696	3,102	9,239	1,319	1,616	201	134,267	35,067	3.8		

・空欄＝募集がない場合。

・小中で選考を一部分けずに行っている場合、受験者数は中学校に含む(東京都、大阪府、熊本県、堺市)。

・中高で選考を一部分けずに行っている場合、受験者数は中学校に含む(宮城県、千葉県・千葉市、東京都、富山県、石川県、福井県、仙台市、さいたま市、新潟市、名古屋市、神戸市)。選考をすべて分けずに行っている場合は、高校の受験者数を「—」としている。

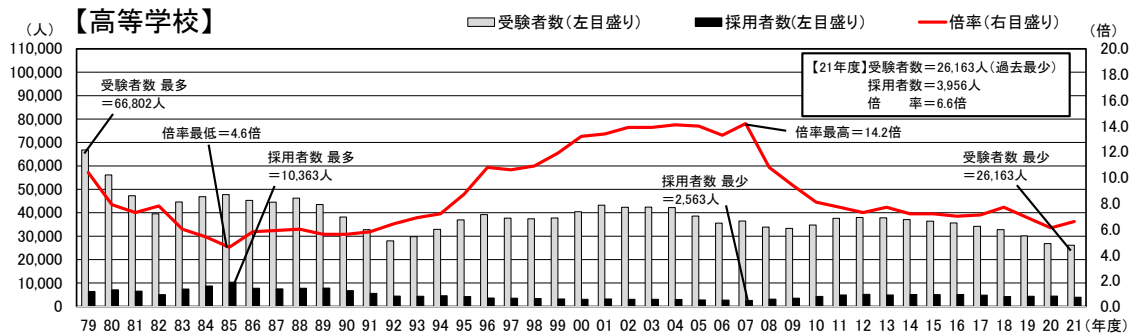
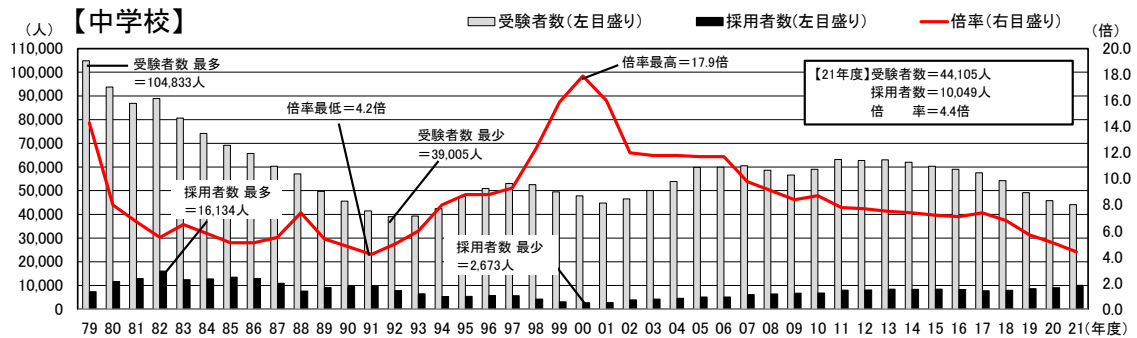
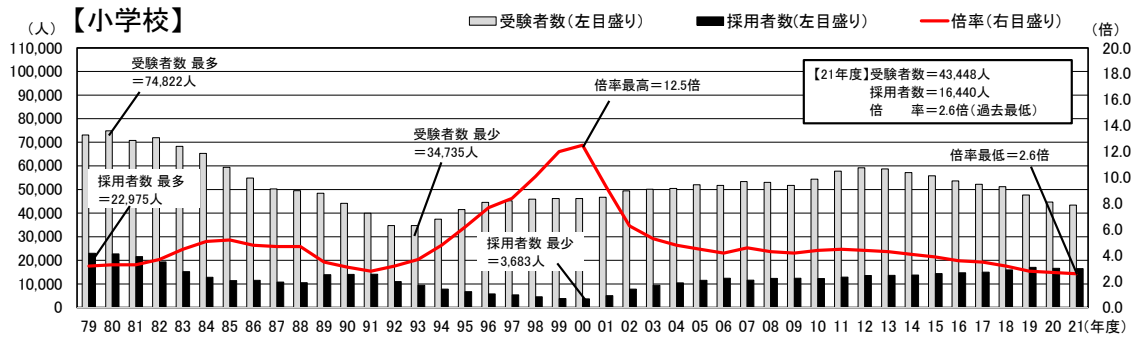
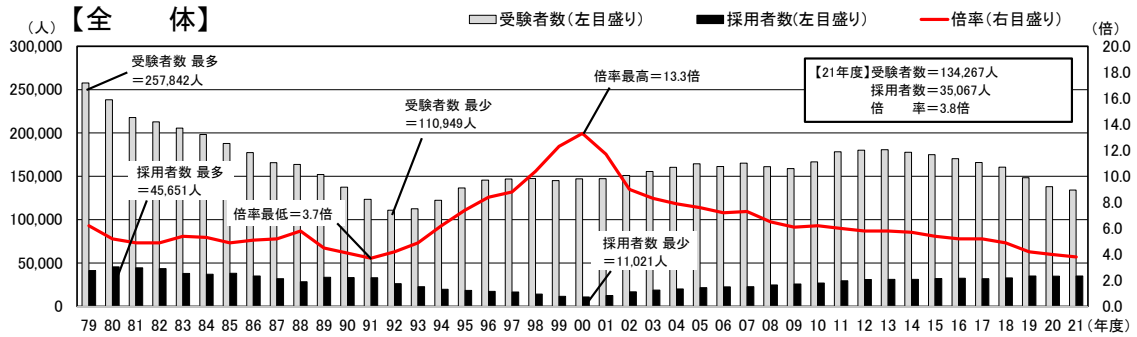
・特別支援学校で小中高などに含めて選考を行っている場合、受験者数は「—」としている。

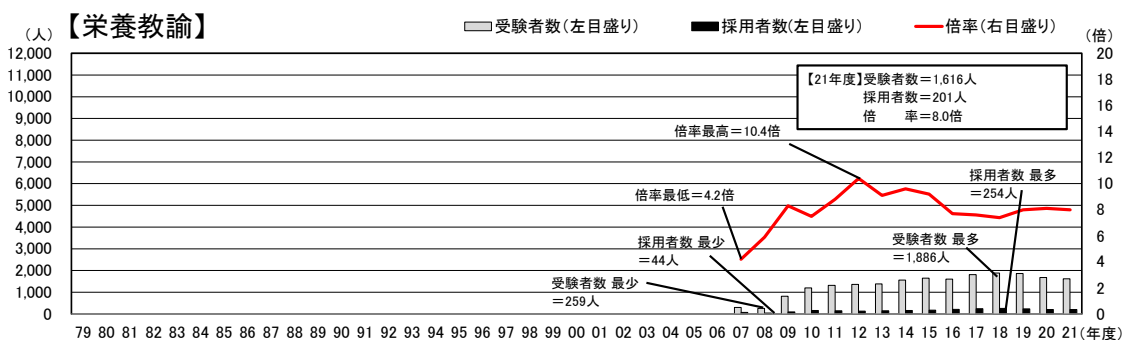
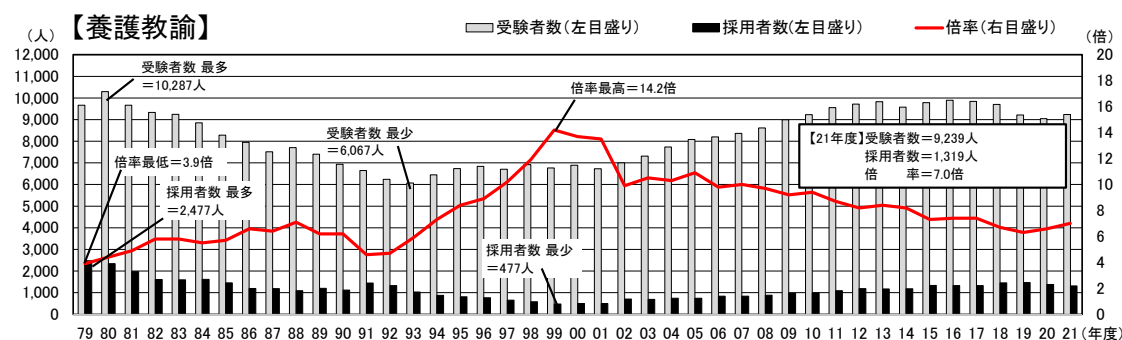
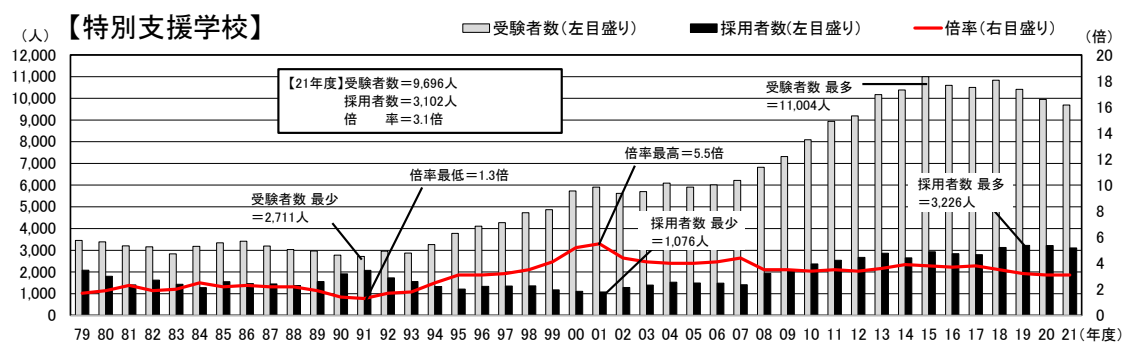
・特別支援学校の受験者で小中の特別支援学級に配置された場合、受験者数は特別支援学校、採用者数は小中に含む(福井県、さいたま市)。

・指定都市で都道府県と合同で選考を行っている場合、受験者数は都道府県に含む。指定都市の受験者数は「※」とし、競争率は都道府県と同値を()で記載。

●選考試験 倍率等推移

※グラフ最初の 1979 年は文科省が実施状況の調査を開始した年。選考試験自体はこれ以前から実施。





文科省は本資料と同日、『教師不足』に関する実態調査を公表した。これによると全国の公立小中高、特別支援学校で2,065人も教師が不足している（2021年5月1日時点）。

なり手は減少、現場は人員不足。最大の要因は教師の過酷な労働環境にある。「学校における働き方改革」答申から3年、国からさまざまな施策が出されたが、現場からは不満の声も多い。ただ皮肉なことに特にこの1～2年は、こうした国と現場のちぐはぐした状況を報じるメディアが増えたことで「学校＝ブラック職場」のイメージが広がり、保護者を含めた社会の中で「学校の先生は大変だ」という理解が深まってきたと感じる。

社会は学校に求めすぎている。国の施策も大事だが、世の中全体でここを減らしていくことで教員の負担は軽減され、より健全な学校教育がなされていくように思う。

(2022.4 石井)